

臨床検査技師による新型コロナワクチン接種報告

～一般社団法人 沖縄県臨床検査技師会～

会長 手登根 稔（浦添総合病院）



【はじめに】

沖縄県においては県の委託事業として、「新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種の為に筋肉注射の臨床検査技師・救急救命士による実施のための研修」が実施され、実際に二施設（琉球大学病院、ハートライフ病院）において、臨床検査技師によるワクチン接種が実践された。今回、その実績について報告する。

【基礎講習修了者数】 **142名**

【実技講習開催回数】 **14回（150名：救急救命士64名）、臨床検査技師の修了者数：86名**
 ※アナフィラキシー初期対応研修は別枠で実施（25名×2回）

【実技研修の風景】



ワクチン接種実技 → 急変時の対応（AED使用） → **アナフィラキシー初期対応まで実施**

【ワクチン接種実績】

<琉球大学病院>

【1回目】

- ・ 時期：2021年9月9日～17日
- ・ 対象者：**大学学生と教職員及び近隣4大学の学生**
でワクチン接種を希望する人

- ・ 接種協力者：**11人**
- ・ 接種総数：**約1000人**

【2回目】

- ・ 時期：2021年12月27日～2022年1月4日
- ・ 対象者：**医学部・病院職員**
- ・ 接種協力者：**5人**
- ・ 接種総数：**約210人**



琉球大学で始まった職域接種でワクチン接種を受ける学生ら＝西原町の琉球大学千原キャンパス北食堂

琉球新報電子版より



医学部・病院職員を対象としたワクチン接種＝琉球大学医学部臨床講義棟大講堂

（医師、臨床検査技師で接種を実施）

<ハートライフ病院>

接種回数：2回 協力者数：**5人** 接種総数：**173人（地域住民含む）**

【接種協力者の体験談】

<琉球大学病院>

- ・ 協力者全員、日頃から採血業務で針の扱いに慣れていたこともあり、はじめの数名は緊張していたものの、その後はスムーズな対応ができていた。
- ・ 採血より容易で、スムーズにこなすことができたとの感想が多かった。
- ・ 恐怖心が強い、または迷走神経を起こす可能性のある方には声掛けをして緊張を和らげたり、ベッドで横になってもらった接種するなど、採血業務での対応が役に立っていた。
- ・ 針が筋肉に刺さる感触、骨に当たる感触などの貴重な体験ができた。
- ・ 1人で約100人の接種を実施し、度重なる手袋の着脱で手の皮膚がボロボロになったことが唯一苦い経験であった。
- ・ 医学部・病院職員への接種では病院長や教授の先生方の接種にもあたり、臨床検査技師の参画を認知していただいた。

<ハートライフ病院>

- ・ はじめは緊張したとの体験談が多く、経験した事のない接種業務に充実感や達成感を感じた。

【他職種からのコメント】

- ・ 検査技師の協力に対して、多数の感謝の声をいただいた。
- ・ 検査技師もできるんだとの認知不足もあったようだ。又、接種業務では、大変有難かったとのコメントも頂いた。

【おわりに】

今回、沖縄県における基礎講習受講修了者は142名おられたが、実技講習受講者は86名であった。60名弱が実技未受講であった理由としては、県が指定した講習会日程（平日含む、同日3～4回実施）に都合が付けられない方がおられたのと、県が実施した実技講習会終了後に基礎講習を終えられた方が多く、次の実技講習会が実施されなかったことが原因と考えられた。沖縄県においては、幸い二施設で施設長からの要請で、臨床検査技師によるワクチン接種が実施されたが、その他の施設の方で実技終了された方々に対しては県からの要請は全くなく、非常に残念な思いであった。

沖縄県議会において、ある議員よりその件に関して質問していただいたが、医者・看護師で十分間に合ったようで、明確な回答は得られなかった。やはり、日頃から行政とのコミュニケーションを密にし連携を取る必要があると思われる。今後も同様なパンデミックが起こった時には、積極的に行政との連携を取り、協力体制を図っていくことが重要であると痛感した。